

U15世代におけるJBA推薦枠制度の設計 ～ 現在までの環境変化 ～ 今後に向けて

JBA推薦枠導入の過去

- 2021年度第2回Jr.ウインターカップ（2022年1月開催）より導入開始

JBA推薦枠導入目的

- その当時のU15カテゴリーの取り巻く環境（クラブ、Bユース等の整備や発展）を整えるため
- 勝利至上に拘り過ぎない、育成年代における「育成マインド」の拡充

JBA推薦枠の現在

- 2025年度大会をもって推薦枠導入より5大会目となり、通過できるチームは、Bクラブのユースチームやクラブがほとんど。かつそういったチームも大会上位に食い込んでいける状況となっている。
- 推薦枠の審査においては、チームの理念や練習環境等が得点化されることから、練習環境が整いやすいBユースチームやクラブチームの得点が高くなり、推薦枠として高順位になるケースが多くなってきた。
※一方で都道府県予選で勝ち抜けなかった場合のための申請（保険）となっているケースが多くみられる。
※JBA推薦枠での出場機会が多いBユースやクラブへの移籍も増えており本末転倒。
- 部活動の地域展開や中期方針の指針等からも、大会における役割や審査のプロセス/内容の再設計の検討が必要ではないか。

**推薦順位の算出におけるプロセスや申請チームの傾向より、
2021年度導入時におけるJBA推薦枠の役割が一定上果たされている。**

U15世代におけるJBA推薦枠制度の設計 ～ 現在までの環境変化 ～ 今後に向けて

Jr.ウインターカップ（全国U15選手権大会）

- U15世代（部活動・Bユース・クラブチーム）の中でNo.1を決めるチャンピオンシップの位置付け

Jr.ウインターカップ&U15世代の今後

- U15世代の日本一を決定するという価値は「Jr.ウインターカップ」が担っていく。
- これからはU15世代の取り巻く環境（部活動の地域展開、U15中期方針の拡充、夏季クラブ大会、勝利だけが全てではない楽しむ層への注力等）を整備していく必要がある。

**大会として縮小をするということではなく、2021年以降から現在に至るまで、
JBA推薦枠に切っていた舵を、現状を鑑みたうえで、
今後のU15世代の環境整備に切り替えていくフェーズである。**

Jr.ウインターカップにおけるJBA推薦枠の役目は終了